

リーディングDXスクール事業【実践事例】

相馬市立中村第二中学校（福島県）

【取組内容①】 個別最適な学びの実現に向けた習熟度別学習の実施（数学科-未来の教室充実事業）

工夫した
ポイント

撮影した動画と1人1台端末を用いることにより、教師1人で習熟度別学習ができるよう工夫した。

〈授業の実際〉 単元名「相似な図形」

主な学習活動

三角形と比の定理、中点連結定理、平行線と比の定理を使って線分の長さを求める。

1 本時のねらい

線分の長さを求めるためには、定理や補助線を引くことが重要であることに気づく。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

タブレット

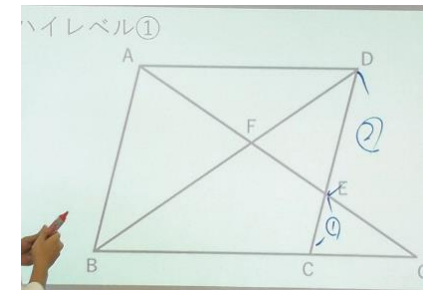
プロジェクタ

3 活用のポイント

主な学習活動	ICT機器活用のポイント
ベーシックコース、スタンダードコース、ハイレベルコースの3つのコースから、1つ選んで問題を解く。	生徒が自分の習熟度に応じて、コースを選んで問題を解くときに、一人一台のTPCを利用し、解説動画を見ながら、自分のペースで問題解決を図られるようにする。



解説動画を見て、問題解決を進める生徒たちの様子



問題解説の動画の様子

4 活用効果

基本的な問題から発展的な問題まで数多くの問題から選択できることが、個別最適な学びの実現につながり、生徒の理解につながっていた。